ピリピの手紙
キリストにあって
福音を生きよう
ピリピ人への手紙1章12～21節
生きることはキリスト
Shikaoichurch.com

アウトライン

０．イントロダクション

Ⅰ．獄中からの奨励　1:12～19

Ⅱ．パウロの願い　1:20～30

Ⅲ．まとめと適用

キリストにあって

福音を生きる

聖書　新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会　許諾番号4-1062-2

ピリピの遺跡　後の教会跡

Ⅰ．イントロダクション

ピリピの遺跡

ピリピ人への手紙とは？

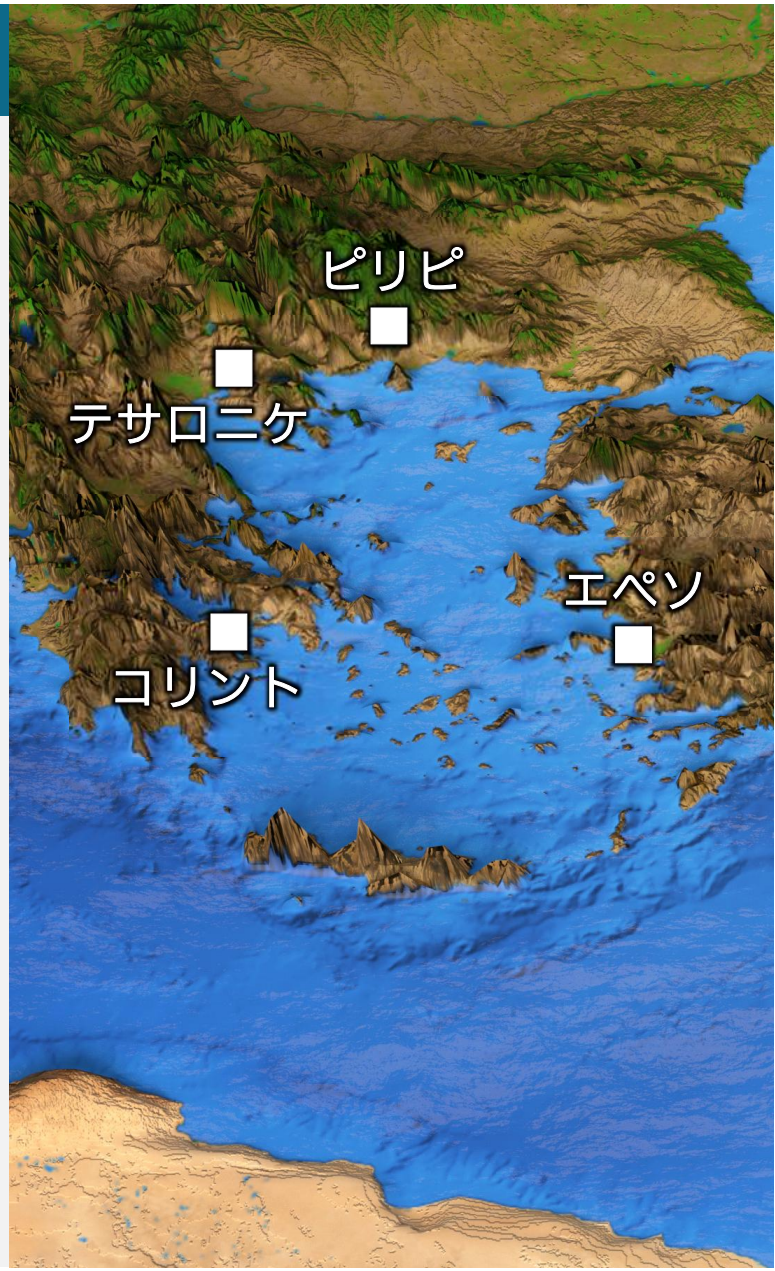
■著者　…パウロ、テモテ(書記?!)

■宛先　…ピリピ(ヨーロッパ初の宣教地)

■場所・時期　…ローマ？　エペソ?!
60年代初め?!　50年代半ば?!

■背景　…ピリピ教会が、獄中のパウロに
エパフロデトを送ったが…

■内容　…「愛の手紙」と呼ばれる

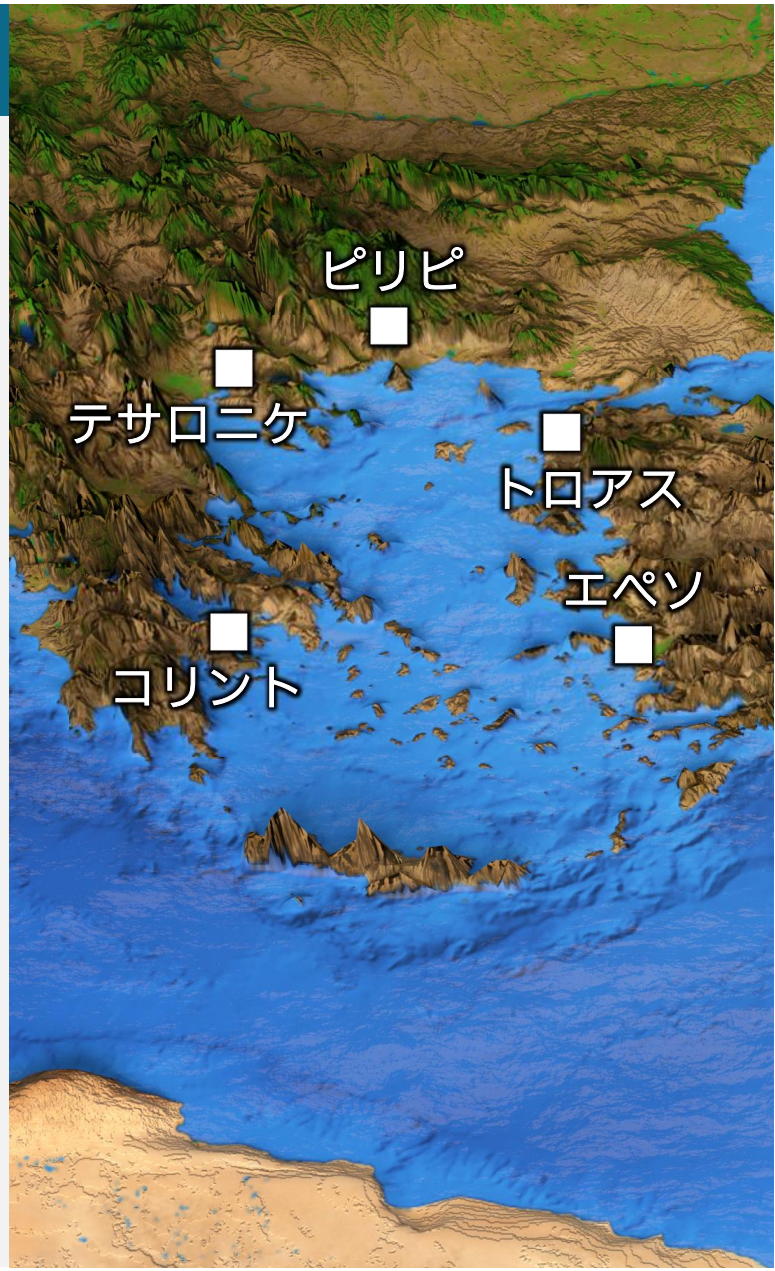


ピリピでのパウロの宣教

- パウロは、聖霊に小アジア宣教を禁じられ、トロアスでマケドニア人の幻を見る。

- 初めてエーゲ海を渡り、マケドニアへ。
  川岸でユダヤ人の集会に遭遇。
  リディアと家族が受洗。

- 女奴隷を占いの霊から解放、無実で投獄。
  地震が起こり、自死を図った看守を止め、
  家族と共に信仰に導いた。



Ⅰ．獄中からの奨励　　ピリピ人への手紙1章12～19節

エペソの街道

勧告　主にある確信　ピリピ1:12

さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったことを知ってほしいのです。

私がキリストのゆえに投獄されていることが、親衛隊*の全員と、ほかのすべての人たちに明らかになり、兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことで、主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆にみことばを語るようになりました。

＊兵営(新共)　…総督府の親衛隊から救われた

■パウロの投獄さえ、福音宣教の機会に!!

➡信仰者を励ます最たることは、一人の救い!!

勧告　動機の違い　ピリピ1:15～17

人々の中には、ねたみや争いから*キリストを宣べ伝える者もいますが、善意からする者もいます。

ある人たちは、私が福音を弁証するために立てられていることを知り、愛をもってキリストを伝えていますが、ほかの人たちは党派心から*キリストを宣べ伝えており、純粋な動機からではありません。鎖につながれている私をさらに苦しめるつもりなのです。

＊利己的な理由からキリストを述べ伝える者が!!

➡他者への優越感、特権意識、様々な欲望…etc

勧告　パウロの救い　ピリピ1:18～19

しかし、それが何だというのでしょう。見せかけであれ、真実であれ、あらゆる仕方でキリストが宣べ伝えられているのですから、私はそのことを喜んでいます。そうです。これからも喜ぶでしょう。

というのは、あなたがたの祈りとイエス・キリストの御霊の支えによって、私が切に期待し望んでいるとおりに、このことが結局は私の救いとなることを知っているからです。

■誰がどう語ろうとも、福音そのものに力がある。

福音宣教の進展こそ、パウロの喜び、力

エーゲ海

Ⅱ．パウロの願い

ピリピ人への手紙1章20～30節

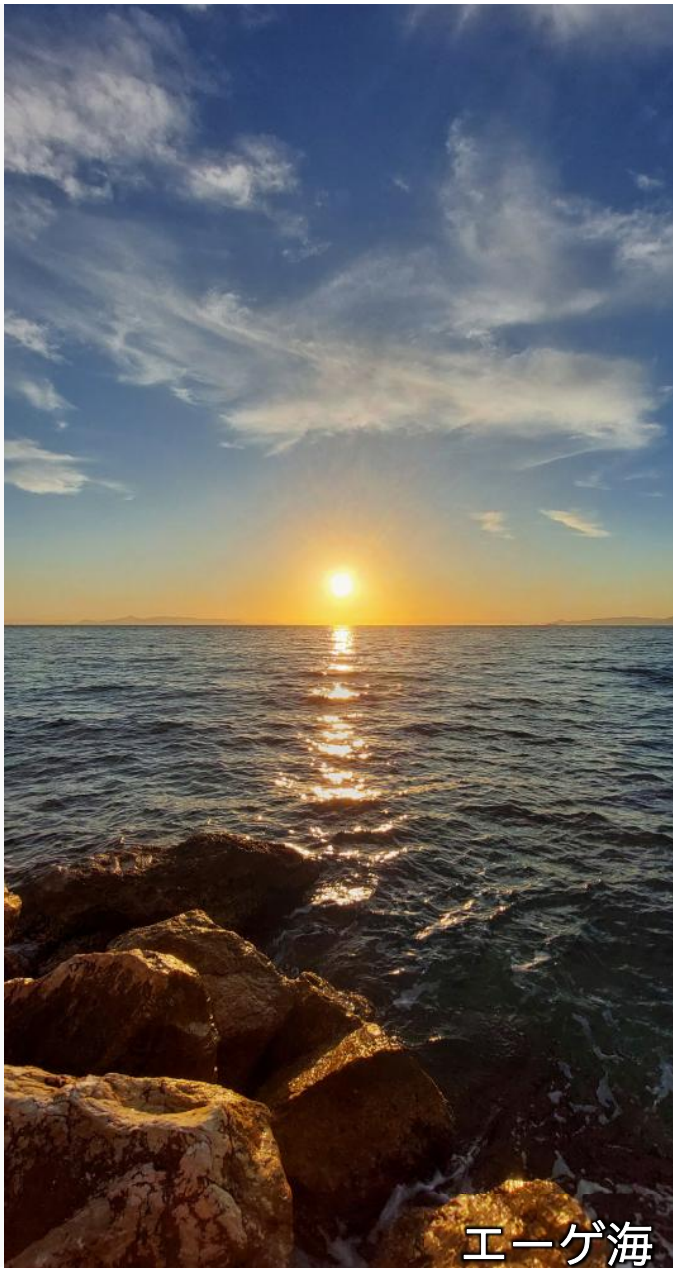
ピリピの遺跡

勧告　生きるにも死ぬにも　ピリピ1:20

私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように大胆に語り、生きるにしても死ぬにしても、私の身によってキリストがあがめられることです。

- 回心の後、ただ福音宣教に全生涯を献げた。

すべてはキリストがあがめられるため!!

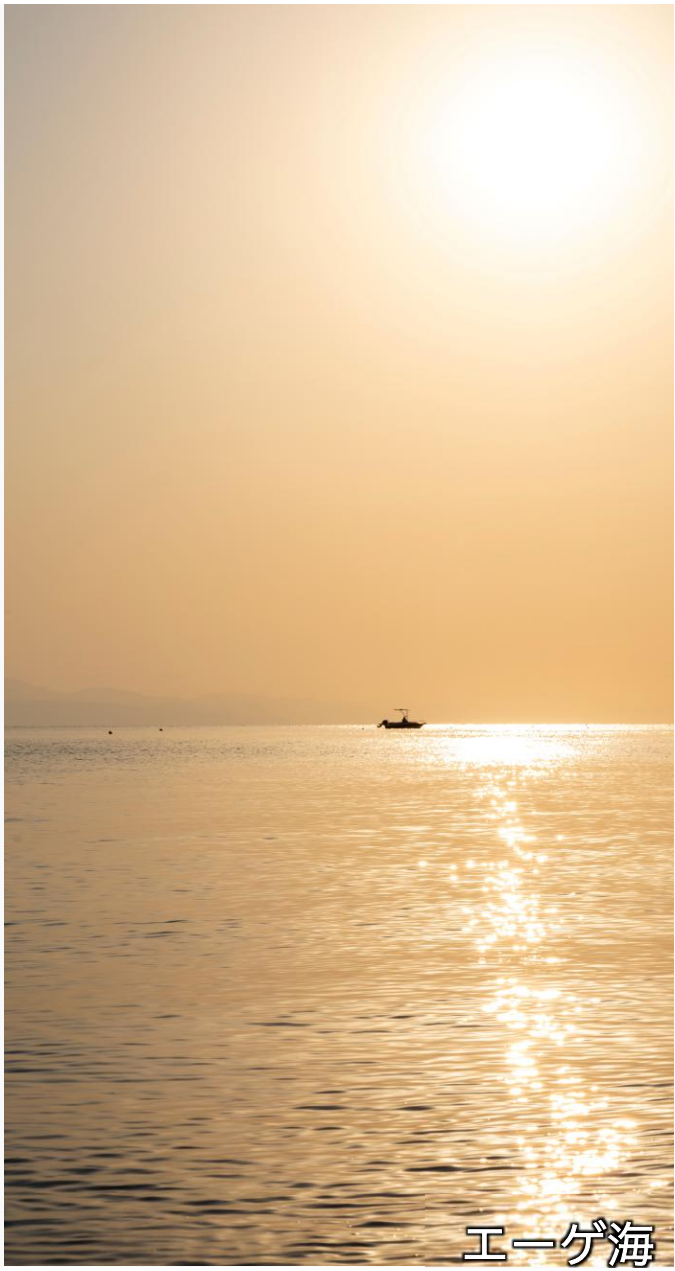

エーゲ海

勧告　生きることはキリスト　1:21～22

私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。

しかし、肉体において生きることが続くなら、私の働きが実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいか、私には分かりません。

- 獄中で死を覚悟し、死を待ち望んですらいる。
  一方、生かされ働きが実を結ぶことも喜び。
  ➡どちらでもよい。力を尽くした者の境地。
  「走り尽くした」と断言できる人だから!!


エーゲ海

勧告　　板挟み　ピリピ1:23～24

私は、その二つのことの間で板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。そのほうが、はるかに望ましいのです。

しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためにはもっと必要です。

■二つの間で板挟みになるのが、信仰者。
御国を切望しつつ、生かされている限り、
世に遣わされて行く。

エーゲ海

勧告　確信と希望　ピリピ1:25

このことを確信している*ので、あなたがたの信仰の前進と喜びのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてとともにいる*ようになることを知っています。

＊愛する兄弟姉妹のため、生きることが必要

＊「いつもあなたがた一同と共にいることになるでしょう（新共）」

■今生を越えた、御国の喜びが重なってる？！

今、共にいる　永遠に、共にいる

エーゲ海

勧告　キリストにある誇り　ピリピ1:26

そうなれば、私は再びあなたがたのもとに行けるので、私に関するあなたがたの誇りは、キリスト・イエスにあって増し加わるでしょう。

「キリスト・イエスにあるというあなたがたの誇りが、私ゆえに満ち溢れるでしょう。（共同）」

- 誇りの中心は、「キリストにある」こと。
- ➡「キリストにある」パウロとの交わりを通して、兄弟姉妹も「キリストにある」確信を深める。

信者の誇りは、「キリストにある」こと!!

エーゲ海

勧告　福音にふさわしく　ピリピ1:27a

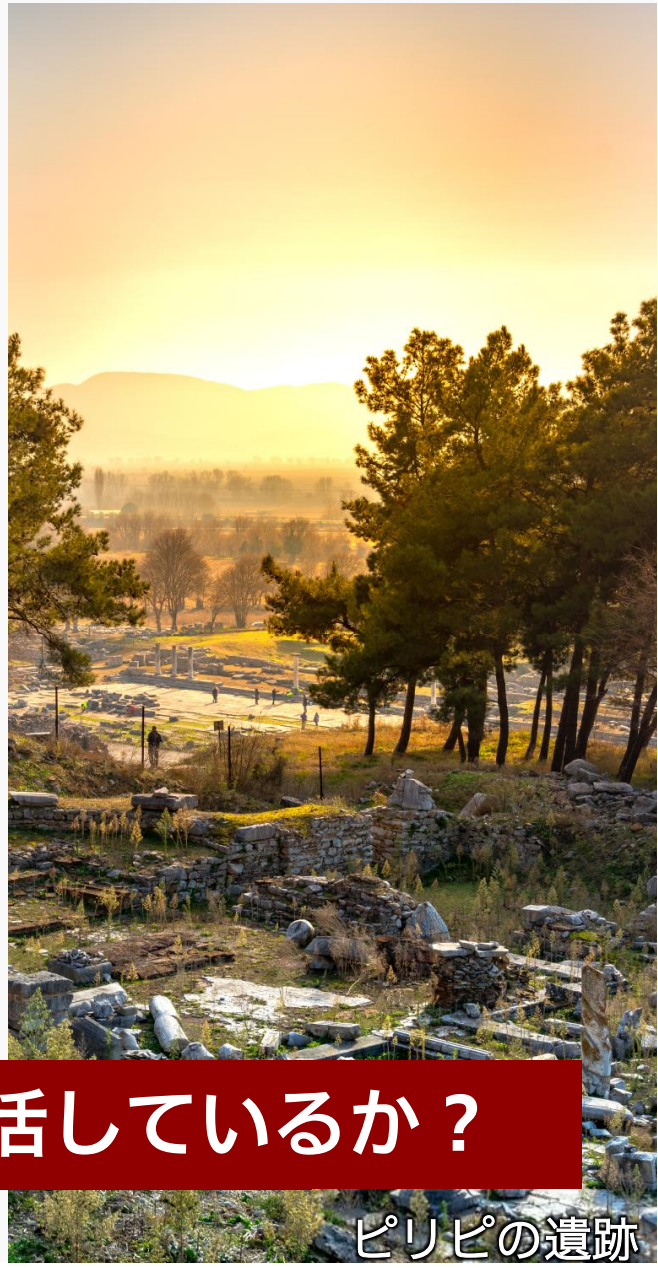
ただキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。

- 私の罪のため、十字架で死なれ、復活された。

キリストの福音にふさわしく、とは？

➡この問いに答えて歩むのが信者の使命

私たちは、キリストの福音にふさわしく生活しているか？



ピリピの遺跡

勧告　救いのしるし　ピリピ1:27b～28

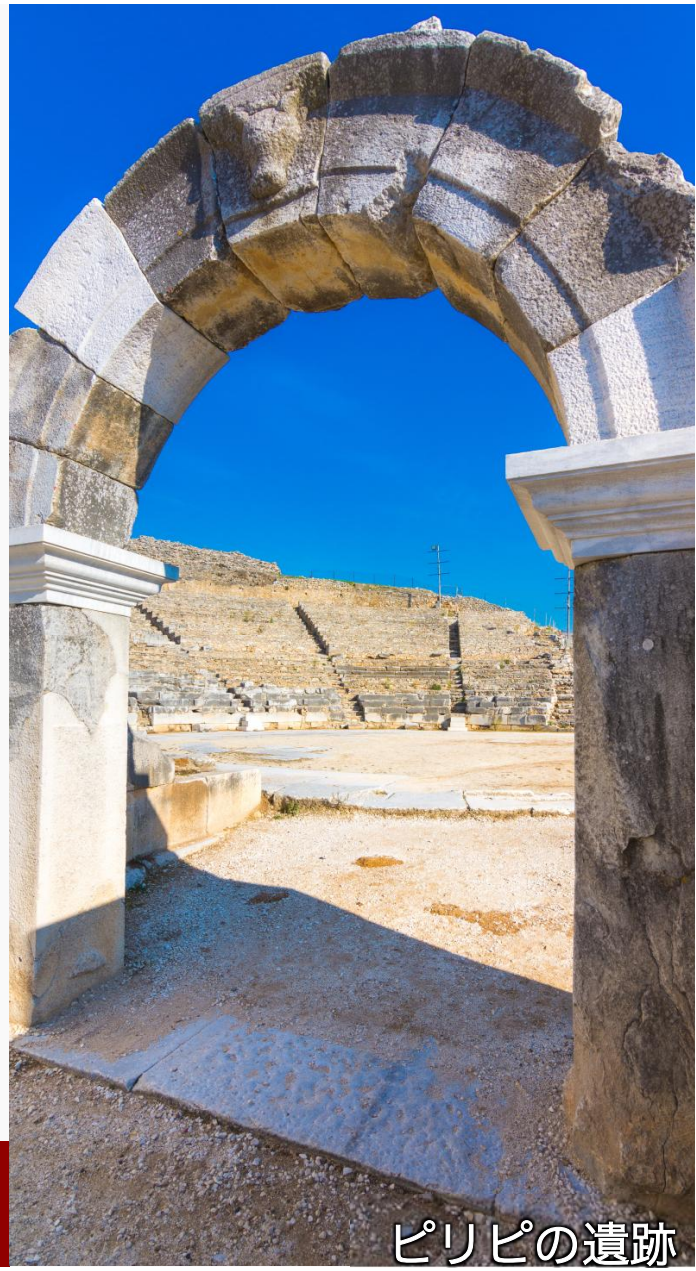
あなたがたは霊を一つにして堅く立ち、**福音**の信仰のために心を一つにしてともに戦っていて、

どんなことがあっても、反対者たちに脅かされることはない、と。そのことは、彼らにとっては滅びのしるし、あなたがたにとっては救いのしるしです。それは神によることです。

- 私たちの心、霊を一つにするのが、**福音**。

  福音に立つ限り、敵に脅かされることはない。

福音による一致こそ、私たちの救いのしるし



ピリピの遺跡

勧告　**苦しみも恵み**　ピリピ1:29～30

あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことでもあるのです。

かつて私について見て、今また私について聞いているのと同じ苦闘を、あなたがたは経験しているのです。

❶キリストを信じて救われる恵み

❷キリストを信じるがために苦しむ恵み

➡信仰の成長と共に❷の恵みも増す

エーゲ海

Ⅳ．まとめと適用　キリストにあって福音を生きる

ピリピの遺跡

誰がどう語ろうとも

- 利己心、優越感、特権意識…。欲望のために伝道する人も。
  ※「ノンクリ」って？　「選びの民」が優越感になってないか。

- 神学的に??な、人や教会も用いられていたりする。
  ➡誰をどう用いられるか。主権はすべて神にある!!
  完全な人、組織はない。欠けある器が用いられる。

- 「あの人、あの教会、あの宣教で救われた？!」
  ➡私自身や私の属する群れも、そう言われているかも。

神学的、教理的違いをどう考える？

- 神学的、教理的違いをどう考える？
  - ➡福音宣教、伝道は、一致してできる
  - ➡教会を建て上げていく神学には、精緻さが求められる
    神学的一致がない人に、礼拝メッセージは託せない

- 福音を伝えるという、この一点において、
  福音を信じているクリスチャンはすべて、一致できる。

福音を携えて遣わされていくところに一致は生まれる

最低限、伝えるべきこと

❶すべての人は、神の怒りを受けて滅ぶべき、罪人

➡自分自身のこととして受け入れるのが、**認罪**

❷主イエス・キリストの福音を信じて、救われる

➡私の罪のため、十字架で死なれ、葬られ、復活されたキリストを、悔い改めて信じるのが、**義認**

人は、使命と責任を負ってこそ、成長する

- パウロが負った使命と責任とは？

  ❶福音を宣べ伝えること

  ❷信者を教え導き、信仰の成長を促すこと

  ➡いずれもただ、主イエス・キリストの栄光のため

- 力を注ぎ続けた結果として、パウロが至ったのが、この境地。

  「私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。」

この境地に向かって、歩み続けているだろうか？

派遣されるただ中で、いのちの御言葉を求めよう

- あれもダメ、これもダメと、切り捨てるばかりで、
  どんどん内に閉じ籠もってはいないか。　➡知識偏重の結果

- たとえ幼い信仰でも、福音さえ伝えれば、人は救われる。
  ただし、伝道メッセージにとどまっていたら信仰は成長しない。

- 堅い食物を食べられるように。聖書の学びを深めて行こう。
  遣わされているただ中でこそ、私たちは打ち砕かれ、
  御言葉がいのちとして、染み渡っていくことも忘れずに。

福音にふさわしく生きる　とは？

■私たちが福音にふさわしく生きているか、実によって現れる。

「あなたがたは霊を一つに*して堅く立ち、福音の信仰のために心を一つに*してともに戦っていて、 どんなことがあっても、反対者たちに脅かされることはない、と。1:27」

＊「霊を一つ」「心を一つ」　…一人では決してできない。
群れに属していて可能なこと。

■一人では実践できないのが、愛。
主にある日々の関係性は、必須。

キリストのための苦難は恵み

「あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことでもあるのです。

かつて私について見て、今また私について聞いているのと同じ苦闘を、あなたがたは経験しているのです。1:29～30」

- 福音宣教と、教会(信者たち)の育成に、遣わされ、用いられるからこその苦難。

この苦難こそ恵み

- 互いに成長を求めなければ、苦難も恵みも増し加わらない!!

★　キリストにあって福音を生きよう　★

誰かの救いと成長に責任を持って、関係性を築いていこう。
独りよがりの信仰から、共同体の一員としての信仰へ。

関係性のないところに、愛は生まれないし、育まれない。
あなたは、キリストにある愛を、誰と共に育みあっているか？

互いの関係が深まるほどに、自分と他者の罪も露わになる。
苦難を恵みと言えるように、福音にふさわしく生きる道を、
模索し続けていこう。この世に生のある限り。

「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください
私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、
②墓に葬られ、
③三日目に復活されたこと、を信じます。
この福音に生きるようにと、主が私たちを促されています。
御言葉に堅く立ち、霊と心の一致がもたらされていきますように。
苦難をも喜び、死をも益とする信仰へ、私たちを導いてください。
永遠の救いの福音を掲げつつ、ここから私たちは遣わされます。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」